

香美市立美術館

アート之窗



収蔵品を中心に

「深沢幸雄・中林忠良展—銅版画への二人の挑戦—」

2月16日(土)～3月23日(日)

日本を代表する二人の銅版画家の作品を、当館の収蔵品を中心に展示します。

版画に興味をお持ちの方は、「エッチング」「メゾチント」「アクアチント」等の言葉を聞かれたことがあると思います。これらすべて銅版画の技法名です。深沢幸雄は、これらの技法を独学で学び、独自の詩情

豊かなカラー銅版画の世界

を創り出しています。一方、中林忠良は、東京藝術大学で駒井哲郎から銅版画を学び、白と黒の腐蝕銅版画を追求し、自然を銅版に転写・腐蝕する『転位』シリーズを創り出しました。

二〇〇六年五月～六月にかけて、当館で「深沢幸雄展」を開催しました。深沢



「花影」 深沢幸雄

幸雄の半世紀を超える画業をふり返る展覧会でしたが、一千百点を超える膨大な作品の中から、ご本人に代表作を選んでいただいたの開催でした。今回は、当館での展覧会を記念して寄贈していただいた作品を中心に展示します。

中林忠良は、一九七〇～八三年、八八年に高知大学特設美術科非常勤講師として来高しています。その間、大学生のみならず、県内の美術教師を中心に、銅版画の指導を受けた人も多く、高知での銅版画普及に貢献されています。また、ガンプ

ピを表面に漉き込んだ版画用紙の開発を、当時の県の紙業試験場(現・高知県立紙産業技術センター)と手漉きの製紙技術者と共に開発し、ご自身もその紙を使用しています。

銅版画の多様な技法を駆使し、独特の世界を創り上げた二人の版画家の作品は、多くの方々楽しんでいただけると確信しています。皆さまのご来館をお待ちしております。

(館長・北 泰子)

香美市の中学生が姉妹都市ラーゴ中学校短期留学

昨年十月二十八日から十一月六日にかけて、香美市内中学生十人、引率二人(計十二人)がアメリカ合衆国フロリダ州・ラーゴ中学校への短期留学を行いました。

現地では、ライオンズクラブの方々にお世話になりながら、市庁舎・関係機関の表敬訪問、ラーゴ中学校での授業参加・日本文化の紹介等、充実した研修を行うことができました。

十二月二十五日の子ども議会に先立って行われた報告会では、次のような感想が報告されました。

●ラーゴ市は、町並みも空も海も全部きれいでしたが、一番私がいかに感動したのは、人の心です。

●今度は、もっと積極的に話せるように、英語の勉強に力をいれたいです。この経験を私の将来に活かしたいと思います。

●初めて、言葉の重要性を身を持って学びました。また、ホストファミリーの方たちのやさしさや笑顔からは、「おもてなし」の心を学びました。娘のようにお世話してくださって本当に感謝しています。

今回の短期留学実施にあたりお世話になりました、ライオンズクラブの方々、各関係機関の方々に感謝申し上げますとともに、今後もラーゴ市との交流が、ますます盛んになりますことを期待しております。

(香美市教育委員会)



日本の文化を紹介する中学生